

**製品名:** TCF7 ウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe21151

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

## 応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:42kD;Observed MW:60kD

## 抗原情報

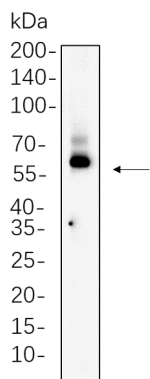
遺伝子名	TCF7
別名	TCF7;TCF1;Transcription factor 7;TCF-7;T-cell-specific transcription factor 1;T-cell factor 1;TCF-1
遺伝子 ID	6932.0
SwissProt ID	P36402
免疫原	ヒト TCF7 の合成ペプチド

## 背景

細胞局在: 核。代替産物: LおよびSの2種類のアイソフォームは、代替プロモーターの使用により産生される。追加のアイソフォームが存在すると思われる。機能: T細胞リンパ球分化に関与する転写活性化因子。CD4(+) CD8(+)未熟胸腺細胞の生存に必要。N末端CTNNB1結合ドメインを欠損するアイソフォームはこの役割を果たすことができない。CD3E遺伝子のプロモーターに存在するTリンパ球特異的エンハンサーエレメント(5'-WWCAAAG-3')に結合。CTNNB1およびTCF7L2標的遺伝子のフィードバック転写抑制因子としても作用する可能性がある。TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4は、TCF7およびCTNNB1を介した転写活性化を抑制する。誘導: TCF7L2およびCTNNB1による。配列注意: フレームの選択が間違っている。類似性: TCF/LEFファミリーに属する。類似性: HMGボックスDNA結合ドメインを1つ含む。サブユニット: CTNNB1のアルマジロリピートに結合し、安定な複合体を形成する。AES、TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4と相互作用する。組織特異性: 主にT細胞に発現する。増殖中の腸管上皮細胞および乳腺上皮の基底上皮細胞にも検出される。

## 研究分野

## 画像データ



HT-29全細胞ライセートを10% SDS-PAGEで分離し、膜をTCF7ウサギモノクローナル抗体(1:1000)でブロッキングした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H+L)抗体を用いた。